

令和8年3月9日

保護者 様

千葉大学教育学部附属特別支援学校  
校長 辻 耕 治

### 令和7年度学校評価アンケートの結果について

令和7年度学校評価アンケートへのご協力を賜り、誠にありがとうございました。保護者の皆様からの回収率は約97%でした。学校評価の概要についてお知らせするとともに、ホームページに公表いたします。

令和7年度の評価について、全28項目での肯定的評価の増加は3項目、同数7項目でした。職員の回収率は100%で、肯定的評価が全32項目中17項目で前年比を上回りました。

- ※1 (1=そう思う) (2=まあまあそう思う) の合計数値を肯定的評価として、自己評価をしています。
- ※2 前年と比較した増減を保護者・職員それぞれに集計した結果として表記いたしました。主に5%以上の上げ下げがあったものについて記載いたしました。

#### I 情報発信・連携について (共通)

- 【保護者】 5項目中1項目、番号「1」学校目標・学校運営に関するものが5%増となりました。「3」外部発信については、5%減、「5」大学等との連携については、9%減でした。Instagramの活用や近隣企業、施設等との地域連携について高い評価をくださった記述もありましたが、大学や附属学校園との交流はやや少なかったところがマイナス要因だと思います。引き続き、大学や附属学校園との連携を密にし、本校の取組を様々な方法で発信していきたいと考えています。
- 【職員】 番号「4」保護者との連携については、7%増の結果から職員が保護者の皆様と連携が図れていると考えていることが分かりました。引き続き、ご家庭や保護者の皆様との連絡を密にし、連携を図っていききたいと思います。

#### II 環境・安全について (共通)

- 【保護者】 番号「6」美化等に関しては、5%減でした。人員不足を理由に整備が行き届かないことがないよう、職員も意識を高くもち、清潔感のある学習環境で子ども達が安心して学べるよう努力していきたいと思えます。
- 【職員】 番号「7」安全に関しては、7%増でした。子どもたちが安心して学校生活が過ごせるように安全管理について引き続き努力していきたいと思えます。

#### III 年間計画・行事について (共通)

- 【保護者】 番号「11」年間計画に関しては14%減となりました。自由記述からは行事時期の見直しや学部宿泊に関する意見、スクールバス等に関するご意見をいただきました。また、行事の縮小や短縮日課の増加に関する言及がある一方、行事が多いことによる体調悪化に関する懸念も挙げられており、学部学年やお子さんの状況により様々な考え方があったことが分かりました。行事の目的や本質を保護者の皆様と共有しつつ、子どもにとっても教職員にとっても無理なく、適切に実施できる年間計画を今後も模索していきます。
- 【職員】 番号「11」年間計画に関しては、ここ2年でそれぞれ10%以上増でした。保護者評価と反する点については、短縮日課(行事前、面談週間、成績処理)を増やしたことが業務を進める上で教職員にとって若干のプラス要因だったと考えられます。今後も子ども達を中心に据えながら、今年度の反省を生かし、持続可能な年間計画立案を進めていきたいと思えます。

#### IV 教育活動について（共通）

【保護者】番号「15」教育活動については5%減。「18」進路については13%減となりました。各学部の段階に応じた進路に関する情報提供や研修などがやや少なく、次年度改善できるよう心がけてまいります。その一方「20」地域連携については6%増でした。各部で地域の施設や企業等との連携を進めていることが、肯定的評価増の一要因になったと考えられます。

【職員】番号「18」進路については13%減。「19」合わせた指導と他の取組との連携については8%減となっています。進路については上記と同様、職員間においても情報を共有する方策や機会を検討していきたいと思います。「19」については、教科横断的な学びにより、活動や経験で得られた知識や技能を相互に活用したり、関連付けたりすることで学びを深められるような視点をさらに大切にしていきたいと思います。

#### V 職員について（共通）

【保護者】番号「25」職員の言葉遣い、マナーなどについて5%減でした。子ども達のよき伴走者、お手本として社会人・職業人としてのマナーを十分意識していきたいと思います。

【職員】3項目中、2項目が100%でした。引き続き情熱をもち、子どもたちに適切な支援・指導をしていけるよう心掛けたいと思います。

#### VI 児童・生徒について（共通）

【保護者】番号「26」学校生活については、5%減となりました。まだまだ至らぬ点がありますが、今後も子ども達が目当てと見通しをもって諸活動に取組み、そこで得られた達成感が明日への活力になるような授業や単元、学校行事を作り上げていきたいと思います。

【職員】大きな変化はありませんでしたが、今後も子ども達の自主性や主体性を引き出せるような授業づくりに取り組んでいきたいと思います。

#### VII 附属の役割（職員のみ）

【職員のみ】番号「31」大学等との連携については、8%減となりました。連携研究の実施や教育実習等の受け入れだけでなく、より一層大学や教育学部との連携を進め、子ども達の経験の拡充や教育の質の向上に資するような取組の充実に努めていく必要があると考えています。

#### その他 番号「33」働き方改革について ※昨年度より追加

【職員のみ】 肯定的評価は87%と前回より7%増でした。初めて本項目を取り入れた昨年度は他の項目に比して低い傾向にありましたが、少しずつ改善されていることが分かります。保護者の皆様には、「働き方改革」＝「行事縮小」と誤解されることのないよう附属学校の職員として責務を全うしつつ、子ども達を中心に考え、無理なく教職員も子ども達も活動できる持続可能な学校運営と教育課程のバランスを今後も模索していきたいと思います。

今回のアンケートでは、本校に対する様々な思い、ご意見、ご要望など多数いただきました。学校として真摯に受け止め、今後も保護者の皆様のご協力をいただきながら、子ども達のためによりよい教育実践・学校運営を行って参ります。 ご協力ありがとうございました。

令和7年度学校評価アンケートのまとめ

- (1) 対象者：保護者（回収率96.6%） 教職員（100%）  
 (2) アンケート項目：保護者28項目 教職員33項目 ※1から28項目までは共通  
 以下、質問項目及び結果を示す。

【評価基準】 1＝そう思う 2＝まあまあそう思う ……肯定的評価  
 3＝あまりそう思わない 4＝そう思わない ……否定的評価  
 ※数値の単位：A～Dは% 全て無回答は0人  
 （無回答を除外した数を母数として算出）

I 情報発信・連携							肯定的 評価	肯定的 評価	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
1	保護者に、学校目標や学校運営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	60%	37%	2%	0%	-	91%	96%
		職員	46%	46%	8%	0%	-	90%	92%
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	74%	21%	2%	2%	-	95%	95%
		職員	59%	41%	0%	0%	-	98%	100%
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、学校見学会、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	67%	26%	5%	0%	-	98%	93%
		職員	67%	31%	3%	0%	-	98%	97%
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	68%	25%	4%	2%	-	96%	93%
		職員	62%	38%	0%	0%	-	93%	100%
5	学校は、大学、附属学校園との連携、交流及び共同学習を進めながら学校運営を行っている。	保護者	49%	33%	14%	2%	-	91%	82%
		職員	46%	49%	5%	0%	-	93%	95%

II 環境・安全							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	68%	26%	2%	2%	-	100%	95%
		職員	26%	64%	10%	0%	-	90%	90%
7	子どもが安心して学べるよう、安全な校内環境になっている。	保護者	68%	25%	2%	4%	-	95%	93%
		職員	38%	59%	3%	0%	-	90%	97%
8	校内に掲示されているお子さんの作品や活動の様子は、分かりやすいものになっている。	保護者	89%	9%	0%	0%	-	98%	98%
		職員	49%	51%	0%	0%	-	98%	100%
9	子どもの様子の変化に目を配り、病気やけがの際の対応を適切に行っている。	保護者	74%	19%	5%	0%	-	96%	93%
		職員	54%	46%	0%	0%	-	98%	100%
10	学校は、地震災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	70%	26%	2%	0%	-	96%	96%
		職員	44%	51%	5%	0%	-	95%	95%

III 年間計画・行事							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
11	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	65%	14%	14%	5%	-	93%	79%
		職員	28%	59%	5%	8%	-	76%	87%
12	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている。	保護者	63%	19%	11%	5%	-	86%	82%
		職員	51%	38%	8%	3%	-	88%	90%
13	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	77%	21%	0%	0%	-	98%	98%
		職員	69%	31%	0%	0%	-	98%	100%
14	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	70%	19%	4%	5%	-	93%	89%
		職員	59%	38%	3%	0%	-	93%	97%

IV 教育活動							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
15	教育活動は、子どもたちが自分から自発的に見通しをもって意欲的に取り組める内容となっている。	保護者	70%	25%	0%	4%	-	100%	95%
		職員	49%	49%	3%	0%	-	100%	97%
16	各学部の教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	60%	35%	0%	4%	-	96%	95%
		職員	46%	51%	3%	0%	-	98%	97%
17	教育課程の中心となっている、遊び、日常生活の指導、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	63%	32%	4%	0%	-	96%	95%
		職員	49%	51%	0%	0%	-	100%	100%
18	進路に関する情報の提供や研修会は十分に行われている。	保護者	32%	44%	14%	9%	-	88%	75%
		職員	28%	49%	18%	5%	-	90%	77%
19	遊び、生活単元学習、作業学習は、他の取り組み（例えば、自立活動や職業/家庭）と連携が図れている。	保護者	56%	39%	2%	2%	-	95%	95%
		職員	38%	49%	13%	0%	-	95%	87%
20	「社会に開かれた教育課程」のために地域資源の活用や地域貢献など地域との連携を進められている。	保護者	63%	32%	4%	0%	-	89%	95%
		職員	46%	54%	0%	0%	-	98%	100%
21	個別的教育計画（個別の指導計画、個別的教育支援計画、個別の移行支援計画）について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧な説明をしている。	保護者	74%	23%	2%	0%	-	100%	96%
		職員	51%	49%	0%	0%	-	100%	100%
22	パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した取り組みは、有効に行われている。	保護者	51%	37%	11%	0%	-	84%	88%
		職員	41%	51%	8%	0%	-	93%	92%

V 職員							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
23	教職員は、熱意と情熱をもって教育活動にあたっている。	保護者	72%	25%	2%	0%	-	100%	96%
		職員	56%	44%	0%	0%	-	98%	100%
24	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	74%	18%	7%	0%	-	95%	91%
		職員	56%	44%	0%	0%	-	98%	100%
25	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	72%	23%	4%	0%	-	100%	95%
		職員	41%	56%	3%	0%	-	100%	97%

VI 児童・生徒							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
26	子どもは、「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を過ごしている。	保護者	75%	18%	4%	2%	-	98%	93%
		職員	56%	41%	3%	0%	-	100%	97%
27	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	61%	30%	7%	0%	-	89%	91%
		職員	64%	36%	0%	0%	-	100%	100%
28	子どもに、挨拶や着替え、社会のルール、働くことの意義など自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	65%	28%	4%	2%	-	93%	93%
		職員	56%	41%	3%	0%	-	95%	97%

VII 附属の役割							R6	R7	
番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R6	R7
29	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	41%	51%	8%	0%	-	95%	92%
30	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	31%	62%	8%	0%	-	93%	92%
31	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	33%	54%	10%	3%	-	95%	87%
32	教育実習生に必要な適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	41%	54%	3%	3%	-	90%	95%
33	教職員は働き方を見直し、勤務時間を意識したり、業務改善を図っている。	職員	38%	49%	10%	3%	-	80%	87%